

# 京都社会学年報

第25号  
2017年12月

〈論文〉

職業威信秩序の自明性と中心／周辺 1975-2016

太郎丸 博

Google Scholar/Books を用いた日本の社会科学文献の引用分析

山本 耕平

—— 格差社会論を事例として ——

マルチカルチュラリズム再考

鈴木 越生

—— 包括的な社会理論的検討のために ——

〈書評論文〉

西洋社会の鏡

吉 琛佳

Lufti Sunar,

*Marx and Weber on Oriental Societies:*

*In the Shadow of Western Modernity*

(Ashgate Publishing Limited, 2014)

[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2.
  - 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。
  - 2) 編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。
  - 3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4.
  - 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。
  - 2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公刊のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7. 本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届けでる。
8.
  - 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。
  - 2) 執筆要項は別に定める。

## 目 次

### 〈論 文〉

- |  |       |    |
|--|-------|----|
| 職業威信秩序の自明性と中心／周辺 1975－2016                                   | 太郎丸 博 | 1  |
| Google Scholar/Books を用いた日本の社会科学文献の引用分析<br>—— 格差社会論を事例として —— | 山本 耕平 | 17 |
| マルチカルチュラリズム再考<br>—— 包括的な社会理論的検討のために ——                       | 鈴木 越生 | 35 |

### 〈書評論文〉

- |  |      |    |
|--|------|----|
| 西洋社会の鏡<br>Lufti Sunar, <i>Marx and Weber on Oriental Societies:<br/>In the Shadow of Western Modernity</i><br>(Ashgate Publishing Limited, 2014) | 吉 琛佳 | 57 |
|--|------|----|

**〈執筆者紹介〉**（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページ（<http://www.socio.kyoto-u.ac.jp/>）をご参照ください。

太郎丸 博  
教授

社会階層論、数理社会学  
現在の研究テーマ：若年非正規雇用・無業の動態、社会学  
の社会学

山本 耕平  
特任研究員

科学社会学、科学計量学、計量社会学  
現在の研究テーマ：社会学の社会学、大卒女性の職業・賃  
金の分析  
Email: koheiyamamoto224@gmail.com

鈴木 越生  
博士後期課程1年次

知識社会学、差異の政治性と歴史性。①さまざまな社会  
における他者との関係構築の実践や思想を調査しその異同  
を分析すること、②他者との関係構築に関わる原理的な諸  
問題について考察すること、の2点を研究課題としている。  
Email: sayuki.tkoll@gmail.com

吉 琛佳  
博士後期課程1年次

社会学理論、社会学史、知識社会学。

## 編集後記

▼1994年、当時在籍した大学院生の提案から創刊された『京都社会学年報』も第25号の発刊に至りました。「四半世紀の歴史」を持った伝統ある研究誌になったのかもしれませんが。しかし本誌を手にとってみると、伝統よりも挑戦に溢れた雑誌という印象を抱かれる方もいると思います。それが本誌の魅力であり、長期にわたって維持されてきたアイデンティティーでもあります。近年では、修士課程修了時に官公庁や民間企業等への就職を希望する在籍者も増えてきました。どのような人生設計においても、院生時代に何かを追求し、その成果を研究誌に発表することは、重要な経験になると考えます。次年度の課題として、修士課程の院生にその意義を伝え、参加をより一層呼びかけることが、本年度編集委員からも提案されました。本誌を次の25年につなげるべく、さまざまな方のご意見を賜りたく存じます。最後に、本号の完成に至るまで、支援いただきました研究室内外の皆様へ心よりお礼申し上げます。

第25号編集委員 D3 堂本直貴  
D1 鈴木起生 D1 吉琛佳 M2 相澤亨祐 M1 河原優子

▼『京都社会学年報』25号をお届けします。25年前、自宅と研究室の往復に閉じこもって自分の研究に専念して論文投稿への執着心がそれほど顕著ではなかった本専修の大学院生に自由で挑戦的な知的発信の媒体を、ということで本誌が創刊されました。あれから四半世紀がたち、教員だけでなく大学院生をとりまく環境も激変し、国際化、業績競争、自己点検の外圧は年々強くなっているようです。そのような時代のなかで、本誌の目指すものは何かを再度問い直す時期にきているのかもしれませんが。なお本号をもって、編集事務の裏方として本誌の刊行・発展に多大な貢献をしてくださった、社会学専修事務室の松居和子さんが編集業務から外れます。これまでの献身とサポートに対して心から感謝の意を表します。ありがとうございました。

『京都社会学年報』編集代表 松田素二

〈査読委員〉

松田素二 落合恵美子 太郎丸博 田中紀行 ステファン・ハイム 安里和晃

## 京都社会学年報 第25号

2017年12月25日発行

編 集 京都社会学年報編集委員会  
(編集代表 松田 素二)  
発 行 京都大学大学院文学研究科社会学研究室  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2758 FAX 075-753-2836  
製 作 株式会社 田中プリント  
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入  
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



この本はそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行人へご連絡をください。

《Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2.
  - i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
  - ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
  - iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4.
  - i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
  - ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8.
  - i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
  - ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

# Kyoto Journal of Sociology

No.25 December 2017

## ARTICLES

Core/Peripheral Differences in Taken-for-Grantedness of Occupational  
Prestige Ranking

Hiroshi TAROHMARU

Measuring the Impact of Japanese Social Science Books Using Google Scholar/Books

Kohei YAMAMOTO

Rethinking Multiculturalism:  
Towards Comprehensive Understanding from a Social Theoretical Point of View

Takeo SUZUKI

## REVIEW ESSAYS

Lufti Sunar,  
*Marx and Weber on Oriental Societies:  
In the Shadow of Western Modernity*  
(Ashgate Publishing Limited, 2014)

Chenjia JI